地域で信頼される病院に

公立東濃中部医療センター（土岐市肥田町浅野）の新たな院長に、循環器内科、不整脈治療を専門とする森島逸郎医師（59）が今月1日付で就任した。「開院からまだ半年。職員、そして地域の皆さんと一緒に、東濃地域で必要とされ、信頼される病院となるようにつくり上げていきたい」と抱負を語る。（小森孝美）

東濃中部医療センター・森島新院長に聞く



「地域で必要とされ、信頼される病院へとしていきたい」と抱負を語る森島逸郎院長＝土岐市肥田町浅野、公立東濃中部医療センター

前任の大垣市民病院には25年ほど在籍。心房細動など不整脈の根治療法であるカテーテルアブレーションでは、約8千例の臨床経験を持つ。現在は、日本不整脈心電学会の理事も務め、不整脈治療を大きく発展させてきた経験を持つ。森島院長が着任し、同センターの不整脈専門医は2人体制となった。「県内でも不整脈専門医の複数体制を取れる施設は多くない。心房細動は悪化すれば脳梗塞や心不全のリスクが高まる疾患。東濃地域の不整脈診療に積極的に関わっていきたい。同時に、急性心筋梗塞など循環器疾患の救急体制を充実させていきたい」と話す。

同センターは、土岐市立総合病院（同市）と東濃厚生病院（瑞浪市）が統合し、2月1日に開院したばかり。経営母体の異なる医療機関の統合は全国的にもまれで、統合の話が出た2013年から13年にわたり尽力した前院長の塚本英人名誉院長に深い敬意を払い「思いを受け継ぎ、地域医療を支える基幹病院としての役割を果たしていきたい」と語る。

同センターは開院に合わせて脳卒中など緊急性の高い脳疾患の救急患者を365日に受け入れる体制が整い、緊急手術から専任の専門医によるリハビリテーションまで切れ目ない医療を提供している。消化器外科ではダビンチを用いたロボット手術を開始。両市で20年以上休止していた産科の分娩も再開した。「両市で年間430人ほどの新生児が生まれている。周産期医療の体制もさらに整えていきたい」。地域に信頼される医療機関となるために、まずは医師ら医療従事者が働きやすい環境を整えることが重要だといい「働き方改革はもちろんだが、自信と誇りを持ち働くことができる病院へとしていくのが院長として私に与えられた使命と責任」と気を引き締める。

東濃地域への赴任は2度目で、研修医後の1995年に中津川市の坂下病院、土岐市立総合病院に勤務した経験がある。「丘陵地に囲まれた東濃の景色は今も昔も変わらない。2度目の赴任となった今回は、趣味の釣りを東濃地域の清流で楽しんでみたい」とも話す。

循環器疾患の救急体制充実へ

もりしま・いつろう　岐阜市生まれ。岐阜高校、名古屋大医学部卒。名古屋大、国立名古屋病院などを経て、2001年に大垣市民病院循環器内科医長、16年に同部長、24年に副院長。今年9月1日に公立東濃中部医療センター院長に就任。